

春の陽を背中いっぱい
に受け間引き作業
に精を出す皆さん
(相川にて)

広報

4月号

昭和48年

まくべつ

緑のジュウタンの中で

ビートの間引き作業

永かった冬から解放され、身も心も、すっきりする今日この頃ですが、農家では早くも猫の手も借りたい程いそがしい毎日をおくっています。

現在、おこなわれている作業はビートの間引きで、ハウス内は、ほど良く伸びた二ツ葉で、まるで緑のジュウタンを敷き詰めたように美しく、その中で、人々は黙々とピンセットで間引き作業に精を出しております。

昨年のビート総収量は待望の十万トを突破、また反収も五トを上回り、十勝のような北国の農業経営からビートを切り離すことは考えられない主要な農作物となっています。

ポットへの播種、畑への移植と次第に省力化されていますが、間引き作業だけは相かわらず人手、それだけに人手集めが最も頭の痛い問題となっています。

ともあれ、十勝の春はハウス内のビート間引きによって幕が開かれると言ってよいでしょう。

昭和四十八年度の予算きまる

一般会計は十八億三千四百九十九万六千円

定例第一回町議会が三月十日に開かれ、昭和四十八年度一般、特別会計あわせて二十三億八千六百六十二万二千円の予算を決めたほか各議案を審議し二十七日に終了しました。町議会の日程および町長の昭和四十八年度行政方針説明、教育委員長長の教育方針説明の大略は次の通りです。

町民福祉の向上に努力

中島町長 行政方針を説明

定例第1回町議会

定例第一回町議会において、昭和四十八年度の各会計予算案ほか諸案件の審議をいただきますにあたり、所信の一端を申し述べるとともに、予算編成の基本的考え方を披れきし提案ご説明といたしたいと存じます。

ご承知のとおり昭和四十七年度のがわが国は、内外ともに、めまぐろしい情勢の変化と、きびしい経済変動の中にあつて、まことに多事多難でありました。本町においても、これら内外諸情勢が流動する中で、総合計画第三年次を迎えるわけでありすが、町発展の基

本的发展方向を示す都市計画事業の推進をはじめ、農業基盤の整備あるいは工業立地条件の整備など、生活生産基盤の整備が、今後における町発展の基礎条件となるに鑑みそのうえに立つて施策を展開し、町民福祉の向上に努力いたしてまいります。

社会福祉優先など

一 町政の基本方針

さて、予算編成の基本方針として、社会福祉の優先など五つの柱を樹立いたしました。

第一の柱であります社会福祉優先の考え方でありますが、福祉優先が要請される今日、本町住民の期待に応えるべく、人間尊重の精

神を基調として明るい町民生活の確立を図ることを行政の最優先とするものであります。

このため、町民が必要とするものを適確にとらえて、広い視野と長期的展望に立つて各種の福祉施策を樹立し、その実現に最善の努力をいたすものであります。

第二の柱・生活環境施設の整備につきましましては、健康で文化的な社会の形成に向つて進みつつある今日、住民の生活環境に関連する行政の需要は極めて多く、これら施設の整備充実はもとより、公害の防止、交通事故対策など、町民生活における弊害を、できる限り防止していかなければならないと

考えるものであります。

このため、街路を主とする生活関連道路網の整備と交通安全施設の整備、あるいは公園の整備などを推進する中で、都市施設の今後における最重点施策と目される公共下水道事業に着手いたしたいと考えているものであります。

第三の柱・教育関係施設の整備と義務教育費の適正化についてであります。これらは教育委員会の方を尊重いたし、本年度は学校教育における施設の整備と義務教育費の父母負担解消に重点をおき予算を編成いたしてまいります。しかしながら本町の義務教育施設は、その多くが戦前あるいは戦後間もなく建設されたもので、未だに無限の夢を託す子ども達の教育の場としては決して十分なものと考えられませんが、基本的姿勢といたしましては、教育施設の地域格差の解消を図るべく、計画

町議会の日程

三月十日	町長、教育委員長の町政および教育方針説明	三月二十日	本会議、予算審査特別委員会
(休会)		三月二十二日	本会議、予算審査特別委員会
三月十六日	再会、一般質問	三月二十三日	予算審査特別委員会
三月十七日	一般質問	(休会)	
(休会)		三月二十七日	本会議、予算審査特別委員会
三月十九日	本会議、予算審		



写真は新しい年度の施政方針を説明する中島町長

的に施策を講じてまいる所存であります。

第四の柱・高生産性農業確立のための農業基盤整備と農業安定化の推進であります。最近、農業をとりまく諸情勢は大変きびしいものがあります。こうした中で生産力を増強し労働の生産性の向上を図るため、本町としても更に一層の努力を注がなければなりません。

甜菜、馬れい薯を中心とする耐冷作物を主体とし、酪農を基幹とする経営のしくみは、漸次、良い方向に進んでいるものであります。が、労働力の不足を補うために機械化が進むことは必然的でありすが、一方では自給肥料の増産に意を注ぐ必要があると思ひます。

本町では、国営の農用地開発事業をはじめ多くの生産基盤整備事業が実施され、あるいは計画中でありますが、これらの事業は本町農業の将来を考えると極めて重要と考え、十分に本町としての姿勢を国あるいは道にたいし反映せしめて、基幹排水施設、営農用水施設の整備、農用地造成を促進しあわせて農用地の集団化を強力に進めてまいりたい、と考えております。

特別会計は5億5570万円



期待出来ぬ町税の伸び 歳入

歳出 経費の節減に努力

びは期待出来ないであろうと予測され、一〇〇程度の伸びにとどめております。町税の歳入予算全体に占める割合は九・一％となっております。

地方交付税は最終的には一三〇程度の伸びしか見込めない状況であり、前年度における伸びを更に下まわるものと予想されます。

また、地方財政資金の見直しは国の大型予算を反映して地方債においては若干の伸びが期待でき、国庫支出金においても、前年よりやや上まわる伸びが見込まれております。

いづれにいたしましても、福祉優先、生活環境整備が行政の最重要点とされる今日、住民の要請にこたえるべく努力いたしますが、自主財源の不足から国、道にたいする依存度は極めて高く、町債の予算に占める割合も漸増の傾向にあります。

こうした状況の中で、昨年来、旧役場庁舎の処分について検討を重ねてまいりましたが、建築以来相当の年数を経て老朽化し、ことに電気配線等の老化、あるいは管理上の問題などから、本年これを処分する方針を固めました。

次に歳出ですが、諸物価の騰貴は最近、特に顕著で、一般経常費についても、かなりの増高が見込まれますが、経費の節減につとめ最少限度の伸びに止めております。このほか、住民の要望を率直に

受けとめ、極めて制約された予算でありますが、多くの事業を当初から予算化し、計画中の懸案事業の中で当初において予算化できないものもありますが、これらの点については確定の時点で、ご説明申しあげます。

予算規模を会計別に申しあげますと
一般会計 十八億三千四十九万六千円
国民健康保険特別会計 一億七

街路灯八十灯を新設します

次に、一般会計における主な施策についてご説明申しあげます。

〔総務課〕 管理部門において昨年度債務負担行為において執行いたしました庁舎の環境整備事業および庁用備品購入の予算を引き続き計上しました。また、町有林造成事業としては本年度千五百九

千八百二十一万四千円
国民宿舎事業会計 一億八千二百三十四万七千円
水道事業会計 一億九千九十六万六千円
簡易水道特別会計 八百九十九万六千円
土地取得事業特別会計 七千五百九十四万三千円
以上、各会計の総額は二十三億八千六百六十六万二千円と相なりました。

らの新設、維持管理費の予算として四百四十万円を見込みました。このほか、広聴活動によって出された軽易な問題を処理するためとりあえず五十万円を計上いたしました。

次に、町ぐるみの交通安全運動を展開するため、地域あるいは職場における実践活動を引き続き助長し歩行者の安全と運転者教育に力を入れ、防護柵等の施設を整備するとともに必要な交通規制あるいは安全施設など早期実現のため努力いたします。

また、予算とは直接関連はありませんが、交通傷害保険制度を更に周知し多くの住民が加入するよう取り進めたいと考えております。失業対策事業は、就労者の高齢化に伴い昨年度からは軽作業に切り替え、本年度も同様の事業として、これを進めてまいります。

災害遺児に年金を支給

生きがい高める各種施策を実施

〔民生課〕 健康で生きがいの

ある老後の生活を確保することを重点とし、前年に引き続き老人医療費無料化を推し進めます。敬老年金については、八千円を一万円に引きあげるとともに、新たに在

宅援護対策として、寝たきり老人家庭にたいし年額一万二千円の見舞金を支給することとし予算を計上いたしました。

次に老人の健康保持に意を用い保健指導を強力に推進し、健康な

老人にたいする表彰をおこない、また、老人クラブの育成支援を進め地域集会所の建設とあわせて、生きがいを高める施策を進めたいと考えております。

児童、母子福祉対策としまして

は、本年度の新規事業として、災害遺児にたいする年金制度を創設いたし年額二万四千円を支給いたします。また、在宅の重度心身障

社会福祉センターを建設

三歳未満児の医療費を無料化

去る昭和四十七年度から実施しています乳児医療費の無料化を、本年四月から三歳未満児、つまり二歳までの乳幼児に年齢を引きあげ、乳幼児の健康保持と家庭経済におよぼす負担の軽減を図ってまいりたい。

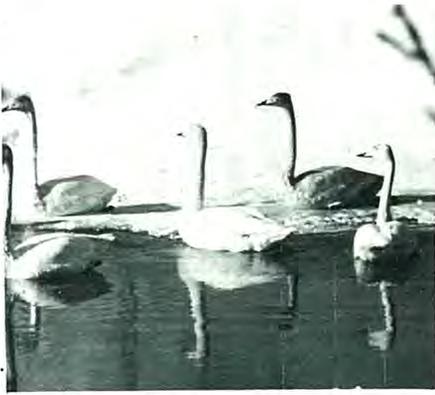
更に、本年六月開設予定の幕別中央保育所とあわせて、本年度は札内第二保育所を新設いたしたく関係機関に要請中であり、へき地保育所については施設、備品等の

整備を計画的に実施いたします。

社会福祉施設の整備については本町総合計画に添って計画的に整備充実を図っておりますが、本年度は、懸案の社会福祉センターを札内地区に建設いたしたいと考え予算を計上しました。この社会福祉センターは、地域の行政、福祉文化と多目的施設として極めて重要であると、考えております。

このほか、母子保健の中心をなす母子健康センターの施設を完備

害児家庭にたいしては年額二万四千円の見舞金支給を制度化いたしました。



旧途別川に姿をみせた白鳥

育成牧場に哺育施設

スノーモービル購入に助成

〈農林課〉 〈農業委員会〉 農

外資本による土地の買い占めが本町においても目立ちはじめ、農地山林、原野の高騰によって、農地の流動が急激に増加しております。こうした現状に対処するため農業委員会では買占め防止に積極的に取り組んでおられますが、昨年の農地移動は件数にして二百七件を数え面積は千四百六十九畝とな



知事夫人が 十勝愛育園を訪れました

三月十一日に道知事夫人の堂垣内香千枝さんが来町しました。知事夫人は十一日に開催された全町婦人大会に講師として訪れたもので「現代社会を生きる知恵」と題して講演しました。知事夫人は、この講演に先立ち依田の十勝愛育園、千住の蝦夷文化考古館を訪れましたが、十勝愛育園では肢体不自由児の訓練状況や施設の内容をみたのち、通園児のお母さん方と、膝をつきあわせて、子ども達のこと、施設のことなどを話しあいました。

写真は、かけ寄った良い子を気軽に抱きあげた知事夫人

し、時代に即した助産施設として効率的な運営を図ってまいりたい

なお、離農あと地につきましては既存農家への譲渡が円滑におこなわれており、今後とも適切な施策を講じてまいりたい。

農業の振興につきましては、農業者をはじめ関係機関が努力いたし、特に、てん菜においては反収六トに近い好成绩を挙げております。

また、離農家は五十四戸、面積六百四十七畝となっております。農外資本による買占めと思われるものは、およそ三百六十一畝であり、これら買占めの防止には農業者一人一人の自覚が必要であり、また、今後、農用地流動化対策協議会の活動に負うところが極めて大きいものと考えております。

沖積土地帯の野菜振興でございしますが、長いも試験圃において、ようやく系統選別もでき、幕別種ともいうべき優良種いもを選出するメドをつけることができ、園芸振興のうえで非常に意を強くしている次第であります。こうした中で、てん菜増産対策事業あるいは



融雪剤散布に活躍するスノーモービル

また、本町商工業界にたいしては経営の合理化、近代化を促進するための資金援助策を中心に、あわせて企業立地に対応する協力体制の確立を促進してまいるとともに、地区労活動を助長する意味に

平和通りの用地を買収

十カ所で街路改良事業を実施

土木費につきましては、計画的な土地利用を進めるための新都市計画法が実施されて第三年目を迎

え、本年度は街路整備事業として昨年度に引きつづき平和通り用地買収を四千三百万円をもって実施いたし総延長八百五十メートルを確保、明年度には中央分離帯十三メートルのグリーンベルトをもつ幅員三十六メートルの街路建設に着手いたします。

市街地環境整備としましては街路改良事業十カ所二千六百六十メートルの改良舗装を実施する計画で、平和通りおよび、これら街路整備は一億三千万円の事業費を要するものであります。

公園事業につきましては都市運動公園整備事業を千四百万円で排水施設および園路などの整備を、あかしや西児童公園千三百平方メートルも本年三百万円をもって施設を整備する計画であります。

公共下水道事業につきましては本格的に着手するため機構の整備とともに基本計画を策定し、計画

において援助をいたし、更に、本町建設業発展の原動力となる技能士会にたいし、技能の研鑽に励んでいただくよう育成を続けてまいりたい、と考えております。

決定にもちこんでまいりたい、と考えております。

昨年、帯広都市圏（一市三町）用途地域決定のための準備作業が続けられ、それぞれ都市計画審議会

あかしや南に大規模団地

稲志別橋を単年度で永久橋に

次に住宅、宅地につきましては旭町に十二戸、春日に二十戸の公

営住宅を建設し、さらに道営福祉住宅を旭町二十戸、春日二十四戸の建設を計画しております。

また、土地開発公社、あるいは振興公社が実施するものといったしましては

①あかしや南団地は近く開発許可がおりる見込みで、四十八、四十九年の二年計画で宅地造成をおこないます。総事業費は約三億一

千万円を要し、完成後は公営住宅二百二十戸を含む五百六戸の大団



幕別ライオンズクラブの
前会長石村元
春さんに、この
ほど、ライ

オンズ国際協会からダイヤモンドをあしらった「百分会長賞」が贈られました。

百分会長賞とは月例報告書の提出、資金づくり、奉仕活動の達成、会員の純増加など、きび

しい用途地域の知事決定告示は、きたる四月一日が予定され、生活環境整備のための基準が示されることになっております。

しい十一項目からなる条件を、すべて満した当該年度のクラブ会長に贈られるもので、道内百四十一

石村さんに百分会長賞
ライオンズ国際協会
から贈られました

クラブから九人が受賞し、十勝からは石村さんただ一人、しかも十勝初の受賞となっております。

この事業は振興公社が実施するもので、町は四十九年度から年賦償還します。建設地区は旭町一カ

所、幕別鉄南地区一カ所、春日地区一カ所、札内北地区二カ所の計五カ所を予定しております。

日新線は三千

五百メートルを改良

町内幹線道路等の整備では

①継続事業の日新線改良事業は国の予算が大幅に伸びたため、当初、終点は林商店前であったものが明倫農免農道まで伸びることに決定いたしました。本年度は約三千五百メートル、五千五百万円で事業を実施し、四十九年度には完了の予定であります。

②同じく継続事業の豊岡地区農道は残りの三千メートルを本年度完了の

石村さんは「クラブ設立以来まだ三年しかありませんが今回の賞は会長個人でなくクラブに贈られたものと考えており、また、幕別のクラブが国際的に認められたことになり、こんな嬉しいことはありません」と語っていました。

写真は石村前会長

予定でしたが、予算の関係で四十九年度に持ちこみとなります。また、相川地区農道、札内農協で実施中の日新地区農道は何れも本年度完了いたしますが、特に、相川農道は主要路線と考えておりますので、近い将来、舗装をいたしたい、と考えております。

なお、交通安全施設事業は、引き続き、あかしや団地内を施行し完了する計画であります。

③新規事業としては札内北通りと幕別、札内線の道路改良工事で何れも単年度で実施します。

橋梁につきましては、幕別、札内線のうち稲志別橋（延長二十五メートル、幅員六メートル）の永久橋架換を単年度で完了する計画であります。

④南勢橋災害復旧事業は、交通事情を考え、幅員四メートルを六メートルに広げる計画であり、建設省の承認を得て四十九、五十年の二カ年で完了したい。この間の通行には

充分意を用い、支障のないようにいたしたいと考えております。このほか、防じんにつきましては、引き続き乳剤、塩カルにより対処いたしたい。

上統内樋門を新設

国の事業としては、昨年特に問題のあった樋門関係でございます

が、上統内、千住、相川などは補修も終り融雪時水害に対処できる状態となっております。

本町内には、道関係を含め三十カ所の樋門がありますが、管理面については一層意をそそぎ万全を期してまいりたい。

なお、上統内樋門は四十八年度新設が決定し、新川についても新設されるよう接衝を続けてまいりたいと思っております。

道の事業といたしましては、道路改良事業として駒島更別線千四百、更別幕別線千、明倫幕別停車場線千、豊頃糠内芽室線二千八百が実施されますが、このほか明倫幕別停車場線のうち幕大線分岐点から猿別市街まで、豊頃糠内芽室線は糠内小学校前から

三千三百、それぞれ舗装いたすことになっております。

農村地帯の査察

に重点をおく

〔消防〕 消防施設として水そう二基、井戸一基を設置する計画であります。また、本年度は消防団運営費の増額を特に配慮いたしました。

予防業務につきましては市街地の査察は勿論であります。本年は農村地帯の査察に重点をおき、予消防の実を挙げてまいりたい。

教育施設の整備拡充

〔教育〕 別途、教育委員会よ

り説明もあろうと存じますが、本年度は教育施設の整備拡充を図るため、計画的に施策を講じてまいりたい。

札内中学校統合校舎建設事業は第二年度を迎え、本年度は約一億円の事業を予定しております。

また、義務教育費の父母負担を解消すべく教育委員会の方針を尊重いたし予算を計上いたしております。

なお、学校教育あるいは社会体育の振興のため、懸案でありました幕別小学校プールの上屋を本年度建設したいと考えております。

犬魂供養祭を開催

三月二十六日の午後、軍岡のゴミ処理場で、犬魂供養祭を新田金剛寺住職を導師に開催しました。

昔から、人間の良き友であった犬族も、飼育者の無理解から犬害に発展、町では野犬掃とう条例を設けて野犬を処理し、昨年一年間でも百八十四頭を殺処分しました。そこで、これら犬族の霊をなぐさめるため供養祭を実施したもので、融雪後、木柱の犬魂供養塔を金剛寺敷地内に建立することになっております。

犬魂供養祭の様



上水道拡張工事は本年度着手

〔水道会計〕

本年度から豊岡簡水と日新簡水を水道事業会計に合併し、事業を運営することといたしました。また、上水道事業拡張事業は、先の議会で審議をいただいたごとく、本年度着工の運びとなっております。

上の写真は各議案を審議する議員の皆さん

(その2)

現上水道の施設改良は、洪水による断水を防ぐため水源ポンプ室の改修を行う計画であります。

なお、簡易水道の会計につきましては、本年度から一つの会計として運営いたすこととしております。以上の二つの会計は、設置目的にそい管理体制を強化してまいりたい、と考えております。

〔国民健康保険特別会計〕

国民健康保険事業は地域住民の医療確保と健康の保持、増進に必要欠くべからざるものであります。

しかしながら医療費の改訂、老人医療費の無料化にともなう給付費の増などにより、その運営は必ずしも容易なものではないのが現状であります。

今後、乳幼児の医療費無料化など更に給付費の増が見込まれるため、所要財源の確保と保険給付の適正をはかり、また、保健婦活動の推進をより強め、地元医師会との協調を深めて診療体制の充実をはかり、本事業の健全な運営をはかる所存であります。

〔国民宿舎事業会計〕

諸物価の高騰あるいは資産の年数経過などにより経費の増嵩が余儀なくされておりますが、利用客の増加、経営の合理化などにより

健全な運営を図るべく努力をいたしてまいります。
しかしながら、今後早い時期に料金改正が、おこなわれなければ

食事内容の充実改善などは極めて困難な状態といわねばなりません
環境庁の考え方は、昭和四十六四十七年度の経営実績を分析検討

豊かな人間性の涵養へ

妹尾教育委員長の教育行政方針

未来を担う青少年の可能性を豊かに開発し、社会に貢献する有能な人間の育成と変化する社会に対応するため、豊かな知性、情操、創造性の豊かな人間性の涵養を基本とした教育行政の進展を期し、住民の期待に添いたい所存であります。

まず、義務教育におきましては急速に変化する社会を直視し、新しい時代を思考する教育のあるべき姿を考察すると同時に、時代の進展に応える調和のとれた豊かな人間形成、一人一人の能力、適性を生かした教育、いわゆる可能性の開発と効果的な学習指導が大切

中で、料金改訂は、今秋以降になる見込みであり、更に努力を重ねる財政の健全化を図ってまいる所存であります。

よい環境をつくりあげ、強い意思と豊かな創造性を生かし涵養するために、住民と密着した、きめこまかな社会教育が必要であります。

そのためには教師個々の研修は当然ですが、校内の共同研究体制を確立し、教育機器の指導組織の考究が大切な事と存じます。

青少年の多様な要求に対処する団体活動と学習活動の強化、家庭教育学級、婦人学級を中心とした学習機会の充実と促進を図り、特に町民の健康に関するレクリエーション活動の普及とスポーツの生活化を期し、町民の方々の付託に応えたいと思います。

小中学校で五十名減

子ども対教師、教師対住民、お互いが愛情と信頼に立脚した生徒指導、そして学校経営が本町の教育を推進する原動力であり今後とも努力を重ねてまいりたいと考えております。

さて、昭和四十八年度の教育予算は二億七千六百十三万円で、前

一般会計歳入 (単位 千円)

款	本年度予算額	前年度予算額
町 税	166,773	142,682
町 民 税	60,309	
町 定 資産 税	58,705	
町 軽 自動車 税	3,209	
町 たばこ 消費 税	26,000	
町 電 気 引 取 税	11,000	
町 木 入 湯 税	50	
町 入 湯 税	7,500	
地 方 譲 与 税	18,000	15,000
地 自 動 車 取 得 税	18,000	15,000
地 方 交 付 税	723,207	590,903
交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	1,000	300
分 担 金 及 び 負 担 金	13,950	4,035
使 用 料 及 び 手 数 料	38,714	32,995
国 庫 支 出 金	253,758	139,704
道 支 産 出 金	169,129	163,552
財 産 付 入 金	49,204	38,430
寄 贈 付 入 金	7,334	8,895
繰 越 収 入 金	10,000	0
繰 越 収 入 金	200	200
諸 町 債 収 入	107,427	106,757
諸 町 債 収 入	253,800	80,300
歳 入 合 計	1,830,496	1,338,753

一般会計歳出 (単位 千円)

款	本年度予算額	前年度予算額
議 会 費	28,857	22,690
総 務 費	244,334	358,550
民 生 費	234,484	83,582
衛 生 費	65,024	51,747
労 働 費	13,059	10,826
農 林 業 費	280,841	241,593
商 工 費	50,905	47,891
土 木 費	461,005	249,727
消 防 費	54,612	41,946
教 育 費	276,130	164,286
災 害 復 旧 費	41,200	1,200
公 債 償 還 費	77,045	61,715
予 備 費	3,000	3,000
歳 出 合 計	1,830,496	1,338,753

千八百八十五万円の増であります。
重点事項を申しあげる前に、町教育の現勢を申しあげなければなりません、時間を要しますので省略させていただきます、児童、生徒数の動きだけを申し上げます。
小学校児童は前年千六百三十五名でありましたが、本年は千六百五名と三十名の減、増加しましたのは白人小学校の二十一名増であります。
中学校生徒は前年八百八十三名であったものが本年は八百六十三名で二十名の減、これは全体的な減となっております。
この結果、小学校におきましては一学級減は幕小、糠内小、途別小の三校、一学級増は白人小の一

柔道連盟で昇級審査会

町柔道連盟の第七回定期昇級審査会が三月二十四日に青少年会館で開催され、合格者が次の通り発表されました。

▽一級―高橋茂樹(清水)
宮垣利文(白樺)▽二級―岡田清、高野光弘、松浦昌典、山田定弘(以上幕高)▽四級―高橋昭浩(幕中)、宮垣直彦(幕小)▽五級―小川純文(西猿別小)▽六級―尾形信治(西猿別小)

校となっており、中学校の場合は学級数の増減はございません。

札内統合中学校

第2年次の工事に着手

学校プールに上屋工事



近く工事が再会される札内統合中学校

第一点といたしましては義務教育費の父母負担解消ないしは軽減という点を、前年に引き続きとりあげ、本年は公費負担軽減費目ととり止めまして、それぞれの該当費目の中に、これを増額するとともに、新たに学校運営費、費目を設け、軽減措置の実効を挙げるべく配慮いたしました。

その一といたしましてはPTA会費中の公費的負担分を解消するべく、前年百五十万五千円でありましたものを二七・七%増の百九十二万二千円に引きあげました。その二は、ただいま申しあげましたPTA会費中の公費見合い以外の父母負担軽減ないしは解消であります。

これは各種学校徴収金、いわゆる学級費、図書費、各種教科消費品費、特別活動費、学校行事費、クラブ遠征費などがあります。これらのものにつきましては、当然公費負担を妥当とされるもの、父母負担を妥当とする部分のあるもの、更にまた地域の特殊条件、または各学校の運営面に、ゆだねられるべき分野のもの、学校規模によつて、その公平を期するため考慮を要するもの等々、これ等を一挙に解消するには、なお検討の

余地と困難性を伴なっているところから段階的、年次計画をもって妥当な線で解消の方向にもつていきたいと考えております。

この分につきましては標準経費を算定それぞれの費目に軽減、解消措置をいたしました。予算見積りは二百二十一万五千円となっております。

第二点は教育施設の整備で、その一は昭和四十七年度に着手しました札内統合中学校新校舎は、本年、第二年次の工事といたしまして千八百六十四平方、事務費を含めまして一億百七十七万八千円をもって施工いたすべく計画を進めております。

その二は校舎および教職員住宅



交通安全の塔修抜式

三月十一日の朝、国道三八号線ぞいの相川地区で、交通安全の塔の修抜式がおこなわれ、式後、施設すべてが町に寄贈されました。

この交通安全の塔は、幕別運送KKと従業員親睦会（平井幸男社長、中島英市会長）が、続発する交通事故の減少を願ひ、また、車を運転する自分たちも姿背を正そう、という目的から頼綱農機具製作所所有地に建設したもので、鉄骨づくり高さ五層五十センチという大きなものです。

塔の上部には百ワの水銀灯が十灯ついており「今日も無事故で」「安全運転之苦労さん」の文字が書かれています。

写真は交通安全の塔の寄贈式

期に年次計画といたしまして四十八年度は九百五十万八千円を予定いたしました。

営繕は、まず防寒補修を優先とし、これに電気工事、火災報知器、屋根塗装など緊急のものから手がける方針でまいりたいと存じます。

また、住宅の新築、営繕につきましてはも校舎同様、一挙にまいりませんので、同様に年次計画となり、四百十萬八千円をもって防寒補修を主とし更に風呂などの付属施設にも配慮いたしたいと存じます。

住宅の更新につきましては、へき地住宅、共済住宅二戸の新築を計画いたしております。

第三点は学校教育の振興で、教育備品につきましては従来からの継続事業であります。国におきましても義務教育教材、理科教育備品にたいし二分の一の補助をいたしており、小学校七百一十一万一千円、中学校四百四十四万六千円をもって充実いたしたいと考えております。

更に教育内容の多様化にともない、教職員の研修に一段の配慮を必要とし、かつ期待されるところであります。これに対しましては道立研究所、または十勝教職員研修センター講座への参加等を積極的に推進いたすとともに、本町内の教育研究所に六十万円、教育振興会に百五十五万二千円を助成

し、意欲的に、これに取り組んでまいりたい、と考えております。

スポーツ教室の拡充

社会教育活動を推進

第四点は社会教育の振興であり、明く豊かな郷土を創るための町民の自主的な社会教育活動を推進するため、指導体制の確立と社会教育施設等の整備拡充を図り、生涯教育の観点に立った社会教育を推進したいと考えております。

社会教育推進目標、十本の柱にそって事業の推進を、はかっています。

- ① 社会教育行政機能の充実に
- ② 社会教育、社会体育の振興と施設、設備の充実に
- ③ 公民館活動の拡充に
- ④ 関係機関、団体の連絡提携に
- ⑤ 青少年教育の振興に
- ⑥ 子供会活動の促進に
- ⑦ 成人教育の振興に
- ⑧ 文化活動の振興に
- ⑨ スポーツの振興に

⑩ 図書館活動および視聴覚教育の拡充

このうち、特に四十八年度において計画をいたしましたものとしては

① 町民水泳プールの設営、すなわち幕小プールを町民プールとしたし、これに上屋をかけることであります。この費用は付帯施設を含み八百三十二万四千円となっております。

② 住民スポーツ需要の増大、特に婦人と地域ぐるみのスポーツ熱が盛んとなつてまいりましたので各種スポーツ教室の開設、拡充を図つてまいりたい、と同時に、従来、スポーツにつきものの事故の対策といたしましてスポーツ障害見舞金制度を新設いたしました。

③ 昨年は小中学生四千六百五十

五名、一般四百九十名の利用がありました温水プールの活用ですがまだ一年の成果だけで見るとは、特には申しあげてもいい事は、子供たちが水をおそれなくなつた事と、お母さん方の参加が特に多かつた事で、四十八年度は更に推進してまいりたい。

篤志寄付者

のお名前

▽三万二千元

札内の川瀬卓雄さんから病氣全快を記念して町社会福祉協議会へ。

▽ヘルズベツト(血圧計)

川瀬卓雄さんから札内寿会に寄付。

▽三万円

札幌の堂垣内香千枝さんから婦人大会講師謝礼を十勝愛育園へ。

▽六千三百四十五円

東京の板宮義光さんから幕別老人クラブへ。

▽五万円

本町の長尾ナミさんから夫所縁さんの香典返しを廃して町社会福祉協議会へ。

▽二万円

長尾ナミさんから夫が生前お世話になりましたと幕別老人クラブへ。

▽一万円

札内の辻田サカさんは病氣全快を記念して札内寿会へ

▽七千四百五十七円

万バレー研究所ではチャリテイパレーショの益金を町社会福祉協議会へ。

▽一万円

札内の辻田サカさんは病氣全快を記念して札内寿会へ



本町の豆剣士活躍

全十勝剣道大会

第三回全十勝剣道大会が、幕別町剣道連盟が主催し、町教育委員会などが後援して三月十八日に幕別中学校体育館、幕別高等学校体育館を会場に開催されました。

全十勝大会は、過去二回とも町剣道連盟が主催して開催しており最も権威のある大会で、今回も十勝管内から三百名をこえる剣士が参加して開かれました。当日は折悪しく寒気がきびし

く、対戦を待つ選手を悩ませましたが、試合が進むにつれて会場は熱気をはらみ、また、息子娘を応援する父兄で大会は、いやがうえにも盛りあがりしました。なお、本町からも小学校と中学校の部に出場、特に、この種大会にはじめて参加した小学校の部幕別Aは、優勝候補と互格にわたりあい、団体戦ではベスト8に残つたほか、個人戦でも猪狩選手が、これまたベスト8に残り、盛んな拍手をうけました。

上の写真は大会風景

と考える次第であります。

車は点火時期の調整を

来る五月一日から「点火時期の調整」をしていない車には乗ることが出来ません。くわしい内容は町民課交通防災係でお聞きください。

▽一万円

猿別の竹本順一さんから、すみさんの香典返しを廃して幕別老人クラブへ。

▽三千元

五位の長谷川国三郎さんは転出にあたって糠内老友会へ。

▽三千元

五位の園部ケイさんは五位から転出にあたって糠内老友会へ。

▽二千七十四円

あかしやの佐柳敏雄さんから佐柳文庫新本購入費として生活館運営審議会報酬を寄付。